様式１－３（統一栽培暦様式）

もっと安心農産物　春菊栽培暦　(令和８年)

ＪＡちばみどり　海上野菜組合

１．土づくり　完熟堆肥を必ず使用し土作りを行なう。（入手先、原料の確認出来る物）

２．施肥　（化学肥料由来の窒素成分は、１１．５ｋｇ以下）　※追肥については適量を守っての施用

	肥　料　名（Ｎ－Ｐ－Ｋ）	施　肥　量(10a)	備　　考
基肥	味好１号（6-8-4有機100%）	２４０ｋｇ/10a	＊土壌診断により施肥量の増減 ＊苦土石灰60 kgでも選択可能
	味好5号(8-1-1 有機100%)	１８０Kg/10a	
	硫マグ(苦土25%) 粒状サンライム(石灰46%)	４０ｋｇ/10a ６０ｋｇ/10a	
追肥	トミー液肥ブラック(10-4-6)	１００ｋｇ/10a	１作あたり使用上限
	くみあい化成8号(8-8-8)	１４０kg/10a	
	味好1号(6-8-4有機100%)	２０～４０ｋｇ	使用上限なし
	味好5号(8-1-1 有機100%)	２０～３０ｋｇ	使用上限なし
	硫マグ(苦土25%)	２０ｋｇ	色が淡く葉肉が薄いとき
葉面散布	カルマグホウ素PK　又は　セルキープ	１０００倍	葉先枯、芯グサレ対策
	ボロンセブン	１０００倍	生育促進

３．防除（防虫ネットを必ず設置する。）化学合成農薬　７成分回数まで（苗購入の場合６成分回数まで）

月／旬	作業	病害虫の発生時期	薬剤名	濃度/使用量	使用時期	備　　考
7～8月	土壌消毒		① バスアミド微粒剤	20kg/10a	播種 21 日前	○夏期太陽熱消毒又は土壌還元消毒の実施。
9月	播種 育苗		②アグロマックス水和剤	300g/10a	は種後発芽前雑草発生前	○育苗ハウスは防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ。
10／上	移植	アブラムシ マメハモグリバエ・ヨトウ類 炭そ病・べと病	③ カルホス微粒剤F	6 kg/10a	定　植　時 (作条処理)	**害虫対策** ○ハウスの換気、出入口には、ネットを張り外部からの害虫の侵入を防ぐ。 ○ハウス周辺の雑草は害虫の住処になるので除草を実施する。 ○ホリバーを吊るし害虫を捕殺する。（ハモグリバエ防除イエロー） ○ハウス内で春菊以外の作物を作らない。
			④ ベストガード粒剤	9 kg/10a	定植時 (植溝処理土壌混和) 収穫3日前 (生育期株元処理)	
10／中			⑤ ストロビーフロアブル ⑥ ガードベイトA	3000倍 3kg/10a	収穫14日前 生育初期	
10／下			⑦ エビセクト水和剤 ⑧ モスピラン顆粒水溶剤	2000倍 8000倍	収穫14日前 収穫 3日前	
			⑨コテツフロアブル	2000倍	収穫14日前	
			⑩ ダントツ水溶剤	2000倍 ～4000倍	収穫 3日前	
11／上			⑪ アファーム乳剤 ⑫カスケード乳剤 ⑬アミスター20 フロアブル	2000倍 2000倍 ～4000倍 2000倍	収穫7日前 収穫7日前 収穫前日	
11／中	収穫始め		**病害対策** ○病害発生株は直ちに抜き取り、圃場外に穴を掘って埋める。 ○一度の多量かん水は菌核病、炭そ病が発生するので、低圧少量で回数を増やす。 ○菌核病、炭そ病は地表面の病原菌が灌水により土壌とともに跳ね上がり感染する。また、ハウス内の湿度が高くなると蔓延しやすいので、適度に換気を行う。 ○株が混みあうと菌核病が発生しやすい。株間は広めにし、株元の通風をよくする。			
12月						
1 月						
2月						
3 月						

備考	病害虫の発生状況により選択 灰色かび病・・・・ボトピカ水和剤（2000～4000倍、発病前～発病初期、制限なし） 軟腐病・・・コサイド3000（2000倍、制限なし、制限なし）、ドイツボルドーA（500～1000倍、制限なし、制限なし）、ジーファイン水和剤（1000倍、前日、制限なし） アブラムシ・・・粘着くん液剤　（100倍、前日、制限なし）、オレート液剤（100倍、前日、制限なし＊農薬成分カウント対象のため注意する。）注意　水分中の石灰分によっては汚れに注意が必要 ヨトウムシ・・・ゼンターリ顆粒水和剤（1000倍～2000倍、前日、制限なし） ハダニ・うどん粉病・・・アカリタッチ乳剤（1000倍～3000倍、前日、制限なし**＊農薬成分カウント対象のため注意**）

★　みんなで守ろう生産基準　★